

ミロン

ミロンとはベンガル語で、手をつなぐという意味です。

編集・発行 ■ **バングラデシュと手をつなぐ会** ■

〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20 (TEL:092-844-1369)(FAX:092-781-9658)

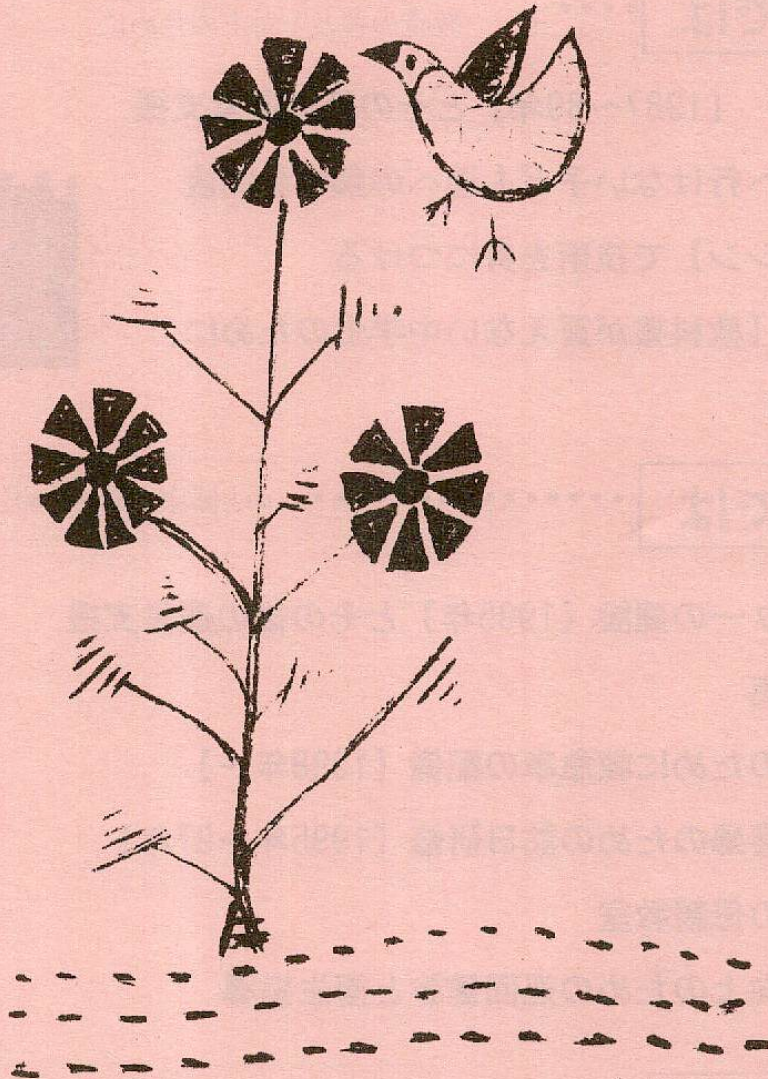
●E-mail:bangla@npggo.jp

Milon

No.96

2003

November



ノクシカタより一部を手描き

■ バングラデシュの豆知識「ノクシカタ」

ノクシカタはベンガル地方の伝統的な刺しゅうです。

ノクシはベンガル語で「イラスト」、カタは「毛布等」を意味します。

元々は着古された木綿のサリー（伝統衣装）に刺し子を施して赤ちゃんのおくるみ、冬用の布団、ベッドカバーとして再利用するために生まれた実用的な技術です。

ノクシカタのモチーフにはベンガル地方の女性を取り巻く世界が使われています。

■ アジアの子どもたちの未来のために ■

バングラデシュと手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディで
現地の村人による開発のための委員会「ションダニ・シヨンスタ」と
協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

教育の分野では ……

将来を担う子どもたちの
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、
教科書の貸出】



医療の分野では ……………

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導

国内活動では ……………

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを
毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

NPO法人化へ動き出します。



ノクシカタより

NPO法人化へ

代表 二ノ坂 保喜

2003年の現地訪問も無事終わり、9月28日の報告会にもたくさんの方に参加いただきました。カラムディ村での教育と医療への協力支援活動も、少しずつ成果を見せつつあるようです。ジャパニ小学校の朝礼や授業の改善、オンネシャ(夢みる子ども基金)小学校の教育の質の向上、母子保健センターとサテライトクリニックによる村人への保健医療の提供、それに子牛の奨学金など、ゆっくりではありますが、着実な成果と言えるでしょう。

一方、事務所にはふくおかボランティアネットから福岡県の人材派遣事業によるスタッフの島田さんが加わり、事務局体制が充実しました。島田さんは、ミロンの編集やホームページの作成など広報部門の強化で特に力になっていただけたと思います。よろしくお願いします。

さて、バングラデシュと手をつなぐ会の昨年来の懸案であった「NPO法人化」へ向けて、いよいよ具体的に動き出します。この間、運営委員を中心に着々と準備を進めてきました。新年の2月にはNPO法人「バングラデシュと手をつなぐ会」の設立のための総会を開催することになりました。手をつなぐ会の新たな飛躍のために、会員の皆さまが多数お集まりいただきますようお願いいたします。

●ミロン96号 目次

■NPO法人化へ	1
■現地からの便り	2~4
■FUNN10周年	5
■長崎報告	5
■冬のスタディツアー募集	7
■行事予定	8



現地からの便り

ラフマン・モクレスール

世界を結ぶ一本の電話機

この10年の間、村は走り続けているような気がします。人々の発展や村の発展のために欠かせないのは交通手段です。

手をつなぐ会が活動し始めた頃、首都ダッカから一日かけても村にたどり着かなかったことがあります。途中、何回もバスや馬車や水牛車に乗り換え、その都度に荷物も汚くなり、疲れ果てて村に着いたことが忘れられません。

しかしいま長距離バスで村の近くまで行き、それからワゴン車で村まで楽々と着きます。雨が降っても、車は走れないことはありません。また村の中もある程度まで整備され、車が走れるようになりました。反面寂しいことには、いままで使っていた馬車や牛車は新しいもののために自分の姿をいつの間にか消してしまっているのです。数年後、博物館の飾りものになるでしょう。

同時に、村にいても、海外にいる親戚の安否を確認することも可能になりました。母子保健センターの門の前に国際電話が設置され、海外から電話を受けたり、かけたりする人も多くなっています。今年の訪問団もこの電話を使って日本にいる家族と話をしました。

また母子保健センターにも電話が接続されました。当センターは実際に24時間体制の病院として活動していますので、昼間はもちろん、夜も緊急患者さんが来院するのです。他の村から病状の悪い患者を急いで病院に運ばなければなりません。いままで誰かが自転車かバイクで救急車を呼びに来ていました。そのために時間も取られ、患者さんの状況が悪化し、実際に助からないことも度々ありました。夜の田舎道をバイクで走るのも危険を伴うものです。一本の電話で救急車も動くし、また患者さんの病状に合わせて病院側も準備しておくことができます。このように、電話を設置することによって、時間も短縮できるし、患者さんに早く対応することができます。

私もこのレポートを書く数分前に現地NGOに電話をかけ、新鮮な情報を得ました。

日本から電話かけるとき 880-791-89138



医療スタッフの確保

母子保健センター建設以来、シオンダニはスタッフの確保に悩まされてきました。医者や看護婦は田舎に長く住みたくもないし、NGOの病院で不安定の仕事もしたくないのが本音です。ほとんどの国立病院は都会にあり、将来も安定し（年金や退職金が支給されるので）、子どもたちの教育機会も充実されています。そのために、みんなは国立病院を目指し、NGOでの勤務は一時的なものになってしまうのです。

医者に入れ替え

Dr. Shadhinは大学卒業後、直ぐに母子保健センターに来てくれました。彼は若くて、人々との人間関係もよかったです。彼はずっと公務員を目指し、勉強してきました。今年彼のその夢が叶い、退職することになりました。

上手い具合、もう一人の医者 (Dr. Abul Hossain) が見つかりました。彼は隣県出身で、97年に卒業後、2つのNGOクリニックで勤務したことがあります。現在やく300キロ離れたところに勤務中のように。奥さんは地元の会社で働いていますので、自分の勤務先から週末でも来られない

看護婦の退職

現在4人の看護婦の内2人は正看です。一人は既に今月20日付退職し、ダッカの病院で勤務しています。もう一人は今月末に退職する予定です。新しい看護婦を募集中ですが、少し時間かかります。

母子保健センターはやっと軌道に乗ってきたような気がします。外来患者も入院患者も増えています。また出産も毎日平均一件あります。昼間の勤務また夜勤も2人の准看でとても無理です。できるだけ早く看護婦を雇いたいたですが、なかなか人が見つからないのです。

なぜこのような状況になっているかという、バングラデシュには看護婦の絶対数が足りないのです。その上、今年国立病院は一期に1,000名以上の看護婦を募集しました。そのために、NGOやクリニックで勤めていた看護婦は国立病院に移り、問題が大きくなっています。

このような問題はおそらく当分続くでしょう。ショングダニとしてその解決策も真剣に考えていかなければなりません。手をつなぐ会もこれから看護婦の養成をどうするか、将来の人材育成に貢献できないかを議論して行きたいと思っています。



子牛プログラム、喜びと悲しみ

2年前から子牛プログラムが始まりました。現地では単なる子牛プログラムと言うのではなく、**栄養と復興 (Nutrition and Rehabilitation)**プログラムといいます。牛乳を飲むことによって子どもたちは栄養を補給し、また牛乳や牛を売れば子どもも学校に通学でき、家族も経済的に復帰するという意味です。牛に対して子どもも親も非常に期待をしているし、想いもとても深いです。

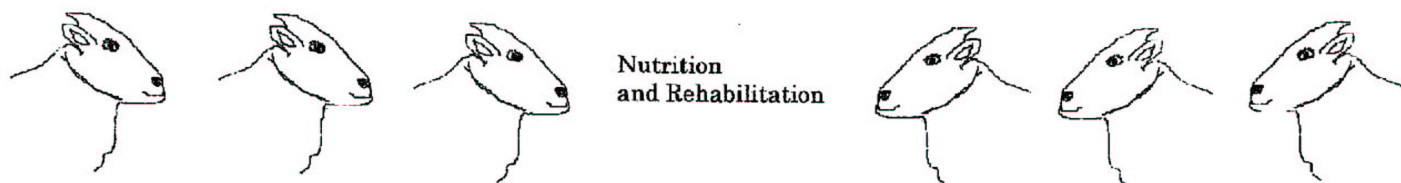
一期目の10頭の子牛は大きくなり、いま7頭が母親に。牛を飼っている子どもも同時に大きくなり、小学校3年から今5年生になっています。そして子牛が母牛になれば、その家族に大きな変化をもたらします。

牛は家族にとって、ただの財産だけではなく家族の一員でもあるのです。

子牛が母牛になったという便りが今年に入って時々届きます。もちろんこのプログラムに関わっている人たちにとって、とてもうれしいニュースの一つです。しかし、いつも良い知らせが来るとは限りません。8月20日、1頭の母牛が近所の農家に突然侵入しました。その農家は畑に蒔く肥料を用意していました。何も知らず牛は、その肥料を食べ尽くしました。そして、誰もが予想しなかった結果が待っていました。牛の状態が急に悪化したのです。持ち主はショングダニの関係者にそのことを知らせました。もう助からないとみんなで判断した結果、その牛を殺し、肉を売ることにしました。市場の値段より安く売り、4,300タカ。家族、とりわけ今まで一所懸命に育ててきた子どもの目の前で牛が命を落とした事、血だらけになった事どんなに悲しかったか、我々には理解しがたいかもしれません。

ショングダニは、その悲しみを少しでも和らげるために対策を考えました。もう1頭、牛を買ってあげることが一番望ましいことではないかと、みんなで話し合い決めました。しかし4,300タカで牛を変えないのが現状です。結局、このプログラムの基金から1,200タカ足して5,500タカでもう1頭の牛を買いました。これから気を付けて牛を育てて欲しいと思います。

9月22日にもう1頭の子牛が母牛になり、家族に笑顔をもたらしました。牛の出産と共に、子どもが元気に学校生活を送り、家族も経済的に少しでも豊かになることを願っています。



子ヤギプロジェクト

今年の現地訪問参加者の一人が子牛プログラムと同時に子ヤギプロジェクトにとっても関心を持ち、提案したことがあります。ジョンダニはこの件に関して前向きに考え、それを実施する方向で下準備しています。次回の会報で詳しいことを述べます。

ラフマン・モクレスール



ミロン太郎

僕は家族の宝になった

笑顔

みんな笑顔

ミルクを飲んで家族は

僕は家族の一員さ

ミルクは栄養をつけている

ミルクは学費になっている

僕は家族の一員さ

代りにミルクをあげるんだ

朝の食事は僕が先

同じ屋根の下

僕は家族の一員さ

はじめまして 広報を担当しています



島田 昌彦

ふくおかボランティアネットより「バングラデシュと手をつなぐ会」に10月1日より派遣されました、島田昌彦と申します。

派遣内容は広報担当業務です。手をつなぐ会のホームページ、広報誌「ミロン」、イベント案内など編集、製作、更新などを主に受け持っております。

私は、岡本太郎の「太陽の塔」が日本の空を突き破ってよりよい未来に向かってっていると、誰もが思っていた1970年代に少年時代を過ごし、80年代に社会に出ました。

それから20年、振り返るとずっと人間にとって機械とは何かを考え、どうすれば機械と仲良くできるのか？を仕事にしてきたように思います。

パーソナルコンピューターに代表される機械文明は暮らしを便利にした反面、様々な問題を起こしてきました。

インターネットは便利ですが、画面に現れる花は、本当の花の美しさにはおよばない。

だからこそ実際に野に出、画面で見た花を探しに行く。

そんな行動のきっかけになるような、ホームページや広報誌作りが出来ればと思います。

※ 今回のミロンの表紙はバングラデシュの伝統的な刺子民芸品、ノクシカタをモチーフに私が手描きで描きました。

NGO福岡ネットワーク10周年記念

体験と発見のワークショップ

NGO福岡ネットワークは2003年9月に、設立10周年を迎えました。

10周年の記念事業として、フォトランゲージを取り入れた開発教育の教材づくりに取り組みます。フォトランゲージは、写真を使って行う参加型学習方法のひとつ。途上国の様子をとらえた写真を見て、そこから読み取れる文化や社会、人々の特徴について、自由な発想で考え、語り合うものです。



多文化が共生する福岡で、市民の皆さんに写真を通して地球に生きる人々に触れ、考え、行動できる学びの場を提供したいと考えています。バングラデシュと手をつなぐ会の皆さんも、ぜひご参加ください。



- 日時：2004年（平成16年）1月11日(日)
- 写真展&ワークショップ午後1時～5時
- 【参加費 会員800円、一般1000円、高校生500円】
- 交流会 午後6時～8時【会場、会費 未定】
- 会場：アクロス福岡円形ホール

NGO福岡ネットワークとは・・・

福岡地区の海外協力団体（NGO）が、相互研鑽と市民や行政への働きかけを目的として93年に誕生したネットワーク組織。現在16団体が参加。NGOカレッジ、ファシリテータ養成講座などの研修や、市民への広報活動、行政への働きかけ、全国のNGOとの連携、参加NGOへの情報提供などを行っています。バングラデシュと手をつなぐ会もネットワークの一員として参加しています。

シーボルトとその時代の音楽

長崎・バングラデシュの母子保健センターを支援する会

10月19日(日)長崎ワシントンホテルで、「バングラデシュの母子保健センターを支援する会」(河内英一会長)主催のトーク&ライブ「シーボルトとその時代の音楽」が行われました。

シーボルト研究家で知られる宮坂正英氏(長崎純心大学教授)の軽妙で興味深いシーボルトの時代の解説、そして宮坂純子氏のフォルテピアノ～異分野で活躍する二人が、シーボルトという共通テーマで語り、演奏する、という初の試みです。このトーク&ライブを楽しみ、その後同時にバングラデシュの報告も行ないました。

当日の参加者は110名あまりで大盛況。シーボルトとモーツァルトが同じ時代に生きていたこと、シーボルトが日本から持ち帰った音楽の本を出版したことなど、興味深い解説と、その中にシーボルトの楽譜や、当時の音楽の演奏を交えながらのトーク&ライブショーでした。

後半は、みんなで食事を楽しみながら、バングラデシュの報告会。二ノ坂が、バングラデシュの国の姿や人々の暮らし、それに会の活動や今年の現地訪問の様子などを紹介しました。

■会計報告 【10月15日現在】

募金協力者（敬称略）

今給黎靖子 野口幸子 三根勝子 富田桂子 下田廣子 福本トミ子 小野美代子
山口マツヨ 出口喜美枝 八木良子 長沼和子（医療） 松尾邦子（その他）

旅費カンパ者（敬称略）

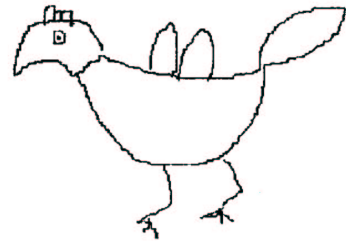
村里ヤヨイ 山下久代 滝本康子

新会員（敬称略）

中牟田健児

ご協力に感謝
申し上げます

会計 宇治



■現地訪問報告会を行いました。



9月28日、九州キリスト教会館にて今年の夏に行われました、現地訪問の報告会を催しました。まず、報告会の前にshana「シャナさん」によるオカリナとギターの演奏で心からときほぐしていただきました。その後、二ノ坂代表による経過報告、ラフマン・モクレスールさんによる現地報告、永島学さんによる子牛プロジェクト報告、その後井上あいさん、前原さやかさんによるそれぞれの視点からの感想が述べられました。

スタッフも含めて約90人の人が、それぞれの想いで時間を過ごしました。

足をお運びいただきました皆様、スタッフとしてお手伝いくださいました皆様、本当にありがとうございました。

さらに、夏の訪問の詳細がわかる報告書等のご希望ございましたら、事務局へお問い合わせください。

総合学習のゲストティーチャーとして前原市立南風小学校にて
バンラデシュのお米について
話をしてきました。



■バングラデシュと手をつなぐ会主催 冬のスタディツアーの募集のご案内

スタディツアー日程

日程：12月20日から30日まで（福岡発着）タイ航空利用

行先：バングラデシュのカラムディ村

活動内容：現地NGOシンドンニ・シオンスタの活動視察

村人との交流

伝統的な農場視察・体験

そのほかダッカでの市内観光、買い物

費用：18万円（往復航空券、滞在費、ピザ代金、

バングラデシュ国内移動費など含む）

※旅行保険料は自払い

申込み締切日：11月10日

募集定員：10名

ご連絡先

ラフマン・モクレスール
福岡市東区箱崎7-20-11-708
tel & fax: 092-632-3382
E-mail: rahman@axel.ocn.ne.jp

Mokhlesur Rahman

7-20-11-708 Hakozaki
Higashi ku Fukuoka city
812-0053 Japan
tel/fax 81-92-632-3382
E-mail rahman@axel.ocn.ne.jp

■バングラデシュ料理教室とスタディツアー報告会と試食会のお知らせ

日程：平成16年1月25日

場所：あいれふ8F（調理室）

福岡市中央区舞鶴2-5-1

TEL:あいれふ（代）712-2662

10:30～バングラデシュ料理教室

13:00～スタディツアー報告会と試食会



参加費：1500円 ※ 材料の準備のため、要予約（約30名）

連絡先：バングラデシュと手をつなぐ会事務局 090-9603-2439(宇治)

■今後の行事予定 ※場所、時間に変更等が生じる事があります、ご確認ください。

日	時間	内容	場所
11月6日(木)	19時～	事務局会議	事務所
9日(日)	13時30分～17時	教育シンポジウム	留学生会館
15日(土) 16日(日)	11時～18時	地球市民どんたく	ソラリア ゼファ
22日(土)	13時～17時30分	市民どんたくセミナー	天神ビル11階
27日(木)	19時～	運営委員会	事務所
12月4日(木)	19時～	事務局会議	事務所
6日(土)	14時～	NPO法人化勉強会	にのさかクリニック
18日(木)	19時～	運営委員会	事務所
12月 20～30日		スタディツアー	バングラデシュ カラムディ村
平成16年1月8日(木)	19時～	事務局会議	事務所
22日(木)	19時～	運営委員会	事務所
25日(日)	10時30分～ 13時～	バングラデシュ料理教室 スタディツアー報告会と試食会	あいれふ調理室
2月5日(木)	19時～	事務局会議	事務所
6日(金)	13時～	ミロン発送	事務所
19日(木)	19時～	運営委員会	事務所
22日(日)	13時～(予定)	臨時総会(NPO法人化の為)	NPOセンター(予定)

■開発と教育のワークショップ 「共に学び、共に生きる」

平成15年11月9日(日) 午後1時30分より午後5時

募集定員：約30名(要予約)

場所：福岡留学生会館国際交流フロア

福岡市博多区店屋町4-1(4階) 電話 092-262-0505

主催：バングラデシュと手をつなぐ会

問合せ先

事務局：宇治 090-9603-2439

にのさかクリニック：092-872-1136

FAX：092-781-9658

バングラデシュと手をつなぐ会のカラム
ディ村への
教育・医療の分野への支援活動や、
村人との関わりを通して、
教育について共に学び、
共に考えましょう。

■入会のご案内

会員募集中

Bangladesh と手をつなぐ会にあなたも参加しませんか？

Bangladesh と手をつなぐ会では、 Bangladesh ・カラムディ村の教育と医療への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

会員

会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。

会費 月額500円 年間6,000円

協力会員

会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人または団体の方。

会費一口月額1,000円年間12,000円

※ 何口でも結構です。

会費振込先	郵便振替口座	01720-2-10442
加入者名	Bangladesh と手をつなぐ会	

※入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはFAXにてお送りください。

きりとりせん

■ Bangladesh と手をつなぐ会入会申込書 ■

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏名

男・女

生年月日

明・大・昭・平

年

月

日

才

職業

住所

〒 -

電話・FAX

E-mail

@

会員 協力会員 として入会を申し込みます。

会費は 年 月分 から 年 月分までの

円を 直接 郵便振替で納めます

■バングラデシュと手をつなぐ会■

事務所

〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20 (TEL:092-844-1369)(FAX:092-781-9658)

●E-mail:bangla@nngo.jp

事務局便り

●アンケートのお礼

ミロン94号でお願いしましたアンケートに何人かの方から、お答えいただきました。
子供が参加できるようなイベントを希望する。
などのご意見をいただきました。
ご協力ありがとうございました。

●事務局に新たなスタッフ 島田昌彦さん

(ふくおかボランティアネットからの派遣者) が加わり
広報の役割を担って奮闘中。

●報告会で演奏して下さったshana(シャナ・オカリナ & ギター) のCD “オカリナ月夜” (花祭り・いつも何度でも他) 1200円を販売中。(売上の一部を会に寄付されます)

ほのぼのと心を癒してくれる演奏をお楽しみください。
オカリナ教室も開講中です。

お申し込み先: へのさかクリニック (092-872-1136)

編集後記

2003年度現地訪問報告書、読んでいただきましたか? 年々ページ数が増えているのにお気づきでしょうか。経費削減の折、手作りしています。印刷はシンデレラタイムをとくに過ぎて「丑みつどき」に。ぜひぜひ隅々までお読みいただき、ご感想をお寄せください。

(宇治)

行事目白押しのこの秋の日々の中、来年のコンサートの準備までしています。

お時間ある方どうぞお手伝いください。

(藤岡)

普段は、筆で絵を描きますが、マウスを使って紙面のイラストを描いてみました。これなら5メートルの絵も机で描けます。

(島田)

■フォトランゲージアンケート■

写真は、今年の夏のカラムディ村でのひとコマです。

写真からどんな事が想像できますか?

今後の活動の参考とさせていただきたいと思います。

事務局までお送りいただければ幸いです。(fax,email可)

※フォトランゲージとは、写真を使って行う参加型学習方法のひとつです。

写真から読み取れる文化や社会の特徴について、みんなで自由な発想をもって話し合うものです。



ご記入欄